

9月7日（土）ホームカミングデー 発達心理・子育て分野

親・教師といった立場における障害児への関わり・親としての子への関わりについて以下の内容について木村進先生とともに話し合いを行いました。

1) 自閉症児をもつ親から

問 自閉症に対する現状の認識が教師に不足していると最近感じています。専門性の不足や行動療法等の知識もなく、ひたすら健常児に近づけようとするだけの支援しか現場教師はしていないと思うのですがどうなのでしょう。

答 学校＝教育であるので学校の教師としては“教育”で決して構いません。専門的な療育は学校ではなく専門的機関に委ねる必要があると思います。しかし、教育をするためにはその個々の子どもたちの状況を理解する必要があります。今後、障害というものを日本の文化の中でどう扱っていくのか問題となってくるでしょう。

2)

問 保育所での障害児対応について

- ① 親から障害児と言われて入所する
- ② 入所後その子の実際を見て援助していく

上記のパターンが考えられるが、障害児教育の専門性、特別支援学校教員免許等の取得などが条件にない保育所ではどのような支援体系を行っていただけるのでしょうか。

答 割りきって言えば先生には親からみればそんなに期待できないでしょう。保育所では障害のあるなしではなく、困っている場面でどのようにクリアにしていけるかを視点に援助しています。問題のある先生であったとしても、その行為を子どもがどう感じているか、それでも子どもが保育所へ通うようであればよしとしてよいのではないだろうか。

以上のような話し合いが行われ、最後に木村先生から…

色々な職種・立場の人が集まって話せたのは意味のあることである。通信教育の中で友人ができ、付き合いが継続してその友人関係が人生の役に立つこともある。なので、できればこういう機会を年一回もって交友関係を深めたらよいのではないか。というお言葉をいただきました。またこのような機会にみなさまと交流し、発達・子育て分野の理解を深めていきたいです。